

一般会計等貸借対照表

(平成31年03月31日 現在)

(単位：円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】	—	【負債の部】	—
固定資産	38,525,305,599	固定負債	19,642,197,927
有形固定資産	31,968,033,718	地方債等	16,235,067,755
事業用資産	23,016,767,700	長期未払金	—
土地	4,283,691,542	退職手当引当金	3,345,677,000
立木竹	—	損失補償等引当金	—
建物	41,423,378,764	その他	61,453,172
建物減価償却累計額	△23,720,526,910	流動負債	2,366,863,836
工作物	4,987,349,686	1年内償還予定地方債等	1,973,145,182
工作物減価償却累計額	△3,993,056,982	未払金	17,011
船舶	—	未払費用	—
船舶減価償却累計額	—	前受金	—
浮標等	—	前受収益	—
浮標等減価償却累計額	—	賞与等引当金	212,399,585
航空機	—	預り金	139,007,010
航空機減価償却累計額	—	その他	42,295,048
その他	—	負債合計	22,009,061,763
その他減価償却累計額	—	【純資産の部】	—
建設仮勘定	35,931,600	固定資産等形成分	39,323,513,176
インフラ資産	8,328,309,642	余剰分(不足分)	△21,462,967,694
土地	148,163,564		
建物	380,189,000		
建物減価償却累計額	△221,854,767		
工作物	42,305,616,599		
工作物減価償却累計額	△34,298,006,754		
その他	—		
その他減価償却累計額	—		
建設仮勘定	14,202,000		
物品	3,029,719,265		
物品減価償却累計額	△2,406,762,889		
無形固定資産	2,949,840		
ソフトウェア	2,914,560		
その他	35,280		
投資その他の資産	6,554,322,041		
投資及び出資金	1,038,810,187		
有価証券	245,370,192		
出資金	59,275,000		
その他	734,164,995		
投資損失引当金	△304,567,039		
長期延滞債権	211,990,766		
長期貸付金	135,890,129		
基金	5,362,998,555		
減債基金	373,680,662		
その他	4,989,317,893		
その他	125,358,039		
徴収不能引当金	△16,158,596		
流動資産	1,344,301,646		
現金預金	200,814,137		
未収金	47,661,066		
短期貸付金	15,722,852		
基金	782,484,725		
財政調整基金	782,484,725		
減債基金	—		
棚卸資産	1,703,396		
その他	297,410,896		
徴収不能引当金	△1,495,426		
資産合計	39,869,607,245	純資産合計	17,860,545,482
		負債・純資産合計	39,869,607,245

## 一般会計等行政コスト計算書

自 平成30年04月01日

至 平成31年03月31日

(単位：円)

科目	金額
経常費用	16,570,925,883
業務費用	10,262,937,207
人件費	2,518,930,309
職員給与費	1,902,713,275
賞与等引当金繰入額	212,399,585
退職手当引当金繰入額	-
その他	403,817,449
物件費等	7,513,493,402
物件費	5,331,982,590
維持補修費	629,174,874
減価償却費	1,552,335,938
その他	-
その他の業務費用	230,513,496
支払利息	116,123,850
徴収不能引当金繰入額	17,654,022
その他	96,735,624
移転費用	6,307,988,676
補助金等	3,490,487,102
社会保障給付	2,011,314,175
他会計への繰出金	801,830,702
その他	4,356,697
経常収益	735,881,146
使用料及び手数料	451,204,046
その他	284,677,100
純経常行政コスト	15,835,044,737
臨時損失	5,897,568
災害復旧事業費	-
資産除売却損	5,268,671
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	628,897
臨時利益	10,246,321
資産売却益	10,174,459
その他	71,862
純行政コスト	15,830,695,984

## 一般会計等純資産変動計算書

自 平成30年04月01日

至 平成31年03月31日

(単位：円)

科目	合計	(単位：円)	
		固定資産等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	15,978,634,841	38,847,605,970	△22,868,971,129
純行政コスト (△)	△15,830,695,984	—	△15,830,695,984
財源	17,708,324,549	—	17,708,324,549
税収等	15,078,095,156	—	15,078,095,156
国県等補助金	2,630,229,393	—	2,630,229,393
本年度差額	1,877,628,565	—	1,877,628,565
固定資産等の変動 (内部変動)	—	473,151,770	△473,151,770
有形固定資産等の増加	—	680,533,946	△680,533,946
有形固定資産等の減少	—	△1,570,582,648	1,570,582,648
貸付金・基金等の増加	—	5,495,383,623	△5,495,383,623
貸付金・基金等の減少	—	△4,132,183,151	4,132,183,151
資産評価差額	△471,042	△471,042	—
無償所管換等	4,753,118	4,753,118	—
その他	—	—	—
本年度純資産変動額	1,881,910,641	477,433,846	1,404,476,795
本年度末純資産残高	17,860,545,482	39,325,039,816	△21,464,494,334

## 一般会計等資金収支計算書

自 平成30年04月01日

至 平成31年03月31日

(単位：円)

科目	金額
【業務活動収支】	—
業務支出	15,424,200,653
業務費用支出	9,116,211,977
人件費支出	2,979,641,024
物件費等支出	5,954,230,260
支払利息支出	116,123,850
その他の支出	66,216,843
移転費用支出	6,307,988,676
補助金等支出	3,490,487,102
社会保障給付支出	2,011,314,175
他会計への繰出支出	801,830,702
その他の支出	4,356,697
業務収入	18,248,610,344
税収等収入	15,090,853,250
国県等補助金収入	2,439,978,893
使用料及び手数料収入	451,090,277
その他の収入	266,687,924
臨時支出	628,897
災害復旧事業費支出	—
その他の支出	628,897
臨時収入	—
業務活動収支	2,823,780,794
【投資活動収支】	—
投資活動支出	6,050,809,193
公共施設等整備費支出	667,299,514
基金積立金支出	5,141,247,361
投資及び出資金支出	1,426,318
貸付金支出	240,836,000
その他の支出	—
投資活動収入	4,188,603,795
国県等補助金収入	190,250,500
基金取崩収入	3,762,848,552
貸付金元金回収収入	225,178,805
資産売却収入	10,325,938
その他の収入	—
投資活動収支	△1,862,205,398
【財務活動収支】	—
財務活動支出	2,059,762,461
地方債等償還支出	2,017,468,424
その他の支出	42,294,037
財務活動収入	1,065,454,000
地方債等発行収入	1,065,454,000
その他の収入	—
財務活動収支	△994,308,461
本年度資金収支額	△32,733,065
前年度末資金残高	94,540,192
本年度末資金残高	61,807,127
前年度末歳計外現金残高	146,510,961
本年度歳計外現金増減額	△7,503,951
本年度末歳計外現金残高	139,007,010
本年度末現金預金残高	200,814,137

# 注 記

## 1 重要な会計方針

### (1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

#### ① 有形固定資産……………取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

#### ア 昭和 59 年度以前に取得したもの……………再調達原価

ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額 1 円としています。

#### イ 昭和 60 年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの……………取得原価

取得原価が不明なもの……………再調達原価

ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額 1 円としています。

#### ② 無形固定資産……………取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

取得原価が判明しているもの……………取得原価

取得原価が不明なもの……………再調達原価

### (2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

#### ① 満期保有目的以外の有価証券

#### ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格

(売却原価は移動平均法により算定)

#### イ 市場価格のないもの……………取得原価

#### ② 出資金

市場価格のないもの……………出資金額

### (3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

販売用土地・・・地方公共団体の財政の健全化に関する法律施行規則第 4 条第 2 項各号に掲げる方法

### (4) 有形固定資産等の減価償却の方法

#### ① 有形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 15年～50年

工作物 10年～60年

物品 2年～18年

#### ② 無形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法

③ リース資産・

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産（リース期間が1年以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

……………自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

(5) 引当金の計上基準及び算定方法

① 投資損失引当金

市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体（会計）に対するものについて、実質価額が著しく低下した場合における実質価額と取得価額との差額を計上しています。

② 徴収不能引当金

未収金については、過去5年間の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。長期延滞債権については、過去5年間の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

③ 退職手当引当金

退職手当債務から組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対して退職手当として支給された額の総額を控除した額に、組合における積立金額の運用益のうち根室市へ按分される額を加算した額を控除した額を計上しています。

⑤ 賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(6) リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引（リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

イ ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(7) 資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物

なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含みません。

(8) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

① 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

② 物品及びソフトウェアの計上基準

物品については、取得価額又は見積価格が 100 万円（美術品は 300 万円）以上の場合に資産として計上しています。

ソフトウェアについても、物品の取扱いに準じます。

③ 資本的支出と修繕費の区分基準

資本的支出と修繕費の区分基準については、原則として、法人税法基本通達第 7 章第 8 節によっています。

2 重要な会計方針の変更等

(1) 会計方針の変更

該当する事項はありません。

(2) 表示方法の変更

該当する事項はありません。

(3) 資金収支計算書における資金の範囲の変更

該当する事項はありません。

3 重要な後発事象

(1) 主要な業務の改廃

該当する事項はありません。

(2) 組織・機構の大幅な変更

該当する事項はありません。

(3) 地方財政制度の大幅な改正

該当する事項はありません。

(4) 重大な災害等の発生

該当する事項はありません。

#### 4 偶発債務

(1) 保証債務及び損失補償債務負担の状況  
該当する事項はありません。

(2) 係争中の訴訟等  
該当する事項はありません。

#### 5 追加情報

(1) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

① 一般会計等財務書類の対象範囲は次のとおりです。

一般会計

流通加工センター汚水処理事業特別会計

農業用水事業特別会計

② 地方自治法第 235 条の 5 に基づき出納整理期間が設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

③ 千円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

④ 地方公共団体の財政の健全化に関する法律における健全化判断比率の状況は、次のとおりです。

実質赤字比率 - %

連結実質赤字比率 - %

実質公債費比率 7.9%

将来負担比率 22.8%

⑤ 利子補給等に係る債務負担行為の翌年度以降の支出予定額 11,737 千円

⑥ 繰越事業に係る将来の支出予定額 1,982,286 千円

(2) 貸借対照表に係る事項

① 売却可能資産の範囲の範囲及び内訳は、次のとおりです。

ア 範囲

売却予定とされている公共資産

イ 内訳

該当資産はありません。

② 減債基金に係る積立不足額  
積立不足はありません。

③ 基金借入金（繰替運用）



土地開発基金 1,000,000 千円

- ④ 地方交付税措置のある地方債のうち、将来の普通交付税の算定基礎である基準財政需要額に含まれることが見込まれる金額 13,586,963 千円
- ⑤ 地方公共団体の財政の健全化に関する法律における将来負担比率の算定要素は、次のとおりです。

標準財政規模	9,119,405 千円
元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額	1,442,260 千円
将来負担額	25,115,765 千円
充当可能基金額	6,600,365 千円
特定財源見込額	3,176,127 千円
地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額	13,586,963 千円

- ⑥ 管理者と所有者が異なる指定区間外の国道や指定区間の一級河川等及び表示登記が行われていない法定外公共物には国直轄事業により整備した国有港湾施設等の工作物があります。なお、当該資産は貸借対照表の資産に計上されません。

(3) 純資産変動計算書に係る事項

純資産における固定資産等形成分及び余剰分（不足分）の内容

① 固定資産等形成分

固定資産の額に流動資産における短期貸付金及び基金等を加えた額を計上しています。

② 余剰分（不足分）

純資産合計額のうち、固定資産等形成分を差し引いた金額を計上しています。

(4) 資金収支計算書に係る事項

① 基礎的財政収支 790,044 千円

② 既存の決算情報との関連性

	収入（歳入）	支出（歳出）
歳入歳出決算書	23,499,462 千円	22,437,655 千円
財務書類の対象となる会計の範囲の相違に伴う差額	117,183 千円	117,183 千円
会計間の取引相殺消去額	19,437 千円	19,437 千円
繰越金に伴う差額	94,540 千円	- 千円
資金収支計算書	23,502,668 千円	23,535,401 千円

地方自治法第 233 条第 1 項に基づく歳入歳出決算書は「一般会計」を対象範囲としているのに対し、資金収支計算書は「一般会計等」を対象としているため、歳入歳出決算書と資金収支計算書は一般会計等に含まれる特別会計の分だけ相違します。

③ 資金収支計算書の業務活動収支と純資産変動計算書の本年度差額との差額の内訳

資金収支計算書

業務活動収支	2,823,780	千円
投資活動収入の国県等の補助金収入	190,250	千円
減価償却費	△1,552,335	千円
資産除売却損益	4,905	千円
その他臨時利益	71	千円
長期延滞債権の減少額	△20,229	千円
その他（投資その他の資産）の減少額	△28,675	千円
未収金の増加額	42	千円
その他（流動資産）の増加額	1,034	千円
その他（固定負債）の減少額	△5,808	千円
徴収不能引当金の減少額	4,961	千円
退職手当引当金の減少額	473,272	千円
賞与等引当金の増加額	△12,561	千円
未払金の減少額	39	千円
建設仮勘定から維持補修費への振替額	△1,118	千円
純資産変動計算書の本年度差額	1,877,628	千円

④ 一時借入金

資金収支計算書上、一時借入金の増減額は含まれていません。

なお、一時借入金の限度額及び利子額は次のとおりです。

一時借入金の限度額	3,500,000	千円
一時借入金に係る利子額	340	千円

③ 重要な非資金取引

無償譲渡による固定資産の取得	4,753	千円
----------------	-------	----

以上